

# 2023(令和5)年度事業報告書

自：2023(令和5)年4月1日 至：2024(令和6)年3月31日

## 公益事業1、写真文化の振興事業

(1) 小学生を対象とした「写真学習プログラム」を全国の小学校18校で講師11名、参加児童数447名で実施した。このプログラムは、児童たちの興味や関心事に目を向け児童と共に体験を通して学ぶ、「体験、参加型」の学習並びに指導で、写真という優れた記録媒体を使っての「記録・表現することの意味」を理解し、家庭や社会で広く写真を活用してもらおうとの願いがある。(2005年の開始時より19年間の合計760校25,593名)。富士フイルムイメージングシステムズ(株)及び(一財)日本写真アート協会、ウエスタンデジタル合同会社、(株)ケンコー・トキナー、リコーイメージング(株)の5社の協力で行っている。

この児童たちの作品を多くの方々に見ていただこうと、富士フイルム(株)・富士フイルムイメージングシステムズ(株)が主催する「“PHOTO IS” 想いをつなぐ。あなたが主役の写真展2023」での特別企画「“PHOTO IS” 小学生の眼」へ参加児童の作品を毎年展示している。2023年度も151点を8月～12月まで東京と大阪の会場及びオンラインで展示した。

(2) 6歳以上の子どもとその家族を対象とした「おやこ写真教室」を10月22日(日)LUMIX BASE TOKYOで行い、6組12名が参加した。

(3) 技術研究会を3回開催した。

①第1回技術研究会「ミラーレス交換レンズの魅力2023、CP+で魅せた製品群」を4月15日(土)(株)ケンコー・トキナー本社7階セミナールーム及びオンラインで開催。講師は田原栄一(株)ケンコー・トキナー)、桑山輝明(株)シグマ)、西角久美子(株)タムロン)で54名が参加した。

②第2回技術研究会「組写真、テーマのを見つけ方と表現～ドキュメンタリーフォト、ルポルタージュフォトのために～」を5月27日(土)東京都写真美術館1Fスタジオで開催。講師は宇井真紀子(正会員)、清水哲朗(正会員)で31名が参加した。

③第3回技術研究会「どうやる、どう使う、初めての画像生成AI」を2024年3月26日(火)JCIIビル6階会議室及びオンラインで開催。講師は山田哲也(正会員)で108名が参加した。

(4) 第48回2023JPS展を開催した。

公募受付：2022年11月10日(木)～2023年1月15日(日)

審査：2023年2月2日(木) 審査員：野町和嘉会長(審査員長)、菊池哲男(正会員)、白鳥真太郎(正会員)、土屋勝義(正会員)、白山眞理(一般財団法人日本カメラ財団調査研究部長)

共催：東京都写真美術館 後援：文化庁ほか

総展示数：489枚(公募213名378枚、会員作品73名101枚、ヤングアイ10校10枚)

応募総数：1,481名、4,524枚(一般：1,322名、4,201枚、18歳以下：159名、323枚)

入賞・入選者総数：213名、378枚(一般：172名、300枚、18歳以下：41名、78枚)

文部科学大臣賞：森 建一郎「郷愁」単写真 カラー

展覧会 第48回2023JPS展。総入場数：4,414名

【東京展】会場：東京都写真美術館B1F展示室、会期：5月20日(土)～28日(日)、入場数：3,125名

【関西展】会場：京都市美術館別館 2F、会期：6月20日(火)～25日(日)、入場数：1,289名

プリント協力：キヤノンマーケティングジャパン(株)、モニター貸出協力：ソニー(株)

『2023JPS展図録』を製作、販売した。

(5) 「2023年新入会員展—私の仕事」を開催した。展示27名54枚

【東京展】会場：アイデムフォトギャラリー「シリウス」、会期：7月13日(木)～19日(水)、入場数：1,719名

【大阪展】会場：富士フイルムフォトサロン大阪、会期：8月25日(金)～31日(木)、入場数：3,043名

(6) 「第17回JPSフォトフォーラム」を開催した。

「旅を撮る」を11月3日(金・祝)東京都写真美術館1階ホールで開催。午前と午後の2回講演とし、合計288名が参加した。

講演：小澤太一(正会員)、竹沢うるま(正会員)

パネルディスカッション：小澤太一、竹沢うるま、山口勝廣(名誉会員)、司会進行：飯田裕子(正会員)

協賛：エプソン販売(株)、OMデジタルソリューションズ(株)、キヤノンマーケティングジャパン(株)、(株)シグマ、(株)タムロン、(株)ニコンイメージングジャパン、富士フイルムイメージングシステムズ(株)

(7) 日本写真家協会賞を贈呈した。

写真文化への貢献に対する顕彰として、第49回「日本写真家協会賞」を株式会社ワン・パブリッシング『CAPA』

に贈り、贈呈式を12月13日(水)、アルカディア市ヶ谷で行った。

授賞理由：「月刊誌『CAPA』は1981年9月の創刊より数えて通算500号を超える、わが国有数のカメラ&写真情報誌です。常に写真関連情報の先端をいき、若者からベテラン写真愛好家まで幅広い読者を豊富な内容の記事で長きにわたり楽しませてきました。今後のさらなる奮闘を願い、激励の意味も込めて」

(8) 2023年第18回「名取洋之助写真賞」の公募を行った。

公募：新進写真家の発掘と活動を奨励するため、40歳までの新進写真家を対象に、同一テーマの作品(プリント)30点を提出。プロ写真家から在学中の大学生まで、13名14作品の応募があった。選考委員は山田健太(専修大学教授)、清水哲朗(正会員)、熊切大輔会長の3名。

受賞者：「名取洋之助写真賞」中条 望「GENEVA CAMP-取り残されたビハール人-」(カラー30点)。「名取洋之助写真賞奨励賞」齊藤小弥太「土地の記憶」(モノクロ30点)、小山幸佑「私たちが正しい場所に、花は咲かない」(カラー30点)。授賞式を12月13日(水)、アルカディア市ヶ谷で行った。

受賞作品写真展：東京展 2024年1月26日(金)～2月1日(木)、富士フィルムフォトサロン東京、入場数5,577名。  
大阪展 2024年3月1日(金)～7日(木)、富士フィルムフォトサロン大阪、入場数3,646名。

(9) 第6回「笹本恒子写真賞」受賞者を選出した。

選考：有識者の推薦による実績のある写真家の候補者を、選考委員 佐伯剛(『風の旅人』編集長)、野町和嘉前会長、熊切大輔会長の3氏により選考を行った。

受賞者：高橋宣之。授賞式を12月13日(水)、アルカディア市ヶ谷で行った。

授賞理由：「高知県の仁淀川水系という限定的なテーマを、数十年にわたって深く掘り下げることで、ネイチャーフォトの枠を超えて、地域文化や生きものの生態までも表現している。このハイクオリティな写真の世界が凝縮された作品群に対して」

受賞記念展：高橋宣之写真展「神々の水系」2023年12月21日(木)～27日(水)、アイデムフォトギャラリー「シリウス」、入場数363名。

## 公益事業 2、写真文化の啓発事業

(1) 専修大学ジャーナリズム学科「フォト・ジャーナリズム論」(2020年4月に旧「報道写真論」から変更)に竹田武史、小松由佳の会員2名を派遣した。この講座は、学生たちの真実を見抜く目を育て、批評力と行動力を養うことを目的とし、メディアの第一線で活躍する写真家や実務者に実作と体験談をもとに、いまメディアの現場で、何が起きているかを理解してもらうことを目的として平成23年度に開設され、当協会は講師派遣を委託されている。

(2) 文化庁委嘱事業「文化関係資料のアーカイブ構築に関する調査研究」

2023年度の収集・調査を行った写真家と原板資料受け入れ状況は、勝山泰佑568点、川西正幸9,700点、津田洋甫1,625点と広島平和記念資料館2点(累計受入数359,573点)。国立映画アーカイブ相模原分館フィルム保存庫への写真原板の入庫作業は2023年6月16日、10月20日、2024年2月22日の計3回行い、計11,821点を収めた。写真原板の入庫内容は、ブリストル、ホレス128点、写真協会4,069点、杉村恒4,224点、若目田幸平3,398点、広島平和記念資料館2点の合計3名2団体11,821点(累計171,804点)。写真原板データベース(閲覧DB)に1,187コマの原板情報を追加し、公開原板数は合計23,929コマとなった。

2014年度から発足した日本写真保存センターの作業に係る費用を支援いただくための支援組織は、会員数11社1団体。(株)アイデム、エプソン販売(株)、(株)キタムラ、キヤノン(株)、(株)シグマ、(株)写真弘社、(株)タムロン、TOPPAN(株)、(株)ニコン、富士フィルムイメージングシステムズ(株)、(株)フレームマン、(一社)日本写真著作権協会。

写真保存センター委員会セミナー「一步進んだ画像保存術、プロが勧めるNAS活用法」を2024年1月24日(水)JCIIビル6階会議室及びオンラインで開催。講師は高村達(正会員)、井上六郎(正会員)、Synology社2名で88名が参加した。

(3) 写真に関する著作権の普及、啓発事業

- ①写真著作権セミナー「第2回知っておきたい写真著作権&肖像権セミナー」を東京と京都で開催した。  
5月21日(日)東京都写真美術館1Fホール、講師：吉川信之(正会員)、山岸伸(正会員)、大西みつぐ(正会員)、パネルディスカッション：山岸伸、大西みつぐ、棚井文雄(JPCA常務理事)。参加数のべ169名。  
6月25日(日)京都市勧業館「みやこめっせ」大会議室、講師：溝縁ひろし(正会員)、ハービー・山口(正会員)、パネルディスカッション：溝縁ひろし、ハービー・山口、棚井文雄(JPCA常務理事)。参加数140名。
- ②著作権に関する「JPS写真著作権相談室」を開催。メール等による相談件数は11件(内、会員6件)。
- ③会報著作権研究 連載55「生成AI画像と写真著作権」吉川信之(著作権担当理事)。連載56「著作者(あなた)を殺すのは誰か! - “著作者人格権” 軽視の重い影 -」棚井文雄(JPCA常務理事)。
- ④Web上での写真著作権の問題点を研究した。
- ⑤著作権の情報収集と公表を行った。
- ⑥(一社)日本写真著作権協会(JPCA)との写真著作権に関わる事業協力を行った。

(4) 『日本写真家協会会報』を年2回、180号、181号を発行した。

180号・座談会「写真の現在、そして未来は？」、焦点「写真家はインボイス制度とどう向き合えばよいか！」、JPS2023年新入会員展「私の仕事」など。

181号・焦点「令和6年能登半島地震」の現場から、第17回JPSフォトフォーラム「旅を撮る」など。

(5) インターネット、ホームページ、フェイスブックを利用したサービス業務。日々の更新、内容の見直しと変更及び修正。協会事業の公開など。EC（エレクトロニック・コマース）サイトの運営。

(6) 写真に関する国際交流事業

協会ホームページ上で「表現者たち」と題する発表を開始し、高評価を得て現在も継続中。

Vol.13「人生は不思議だ～ まるで見えない糸に引かれるように展開する」内藤忠行

Vol.14「Only after we run, can we know the joy of wind.」Sails Chong 庄 揚帆

Vol.15「ムダな事は何もない」梁 丞佑 ヤン スンウー

(収益事業)

### 収 1 事業、書籍、物品の販売事業

(1) ネガカバーなど写真整理用品や「JPS腕章」とPRESSステッカーの製作及び販売をした。

(2) 海外プレスカードの発行をした。

(その他の事業 共益事業等)

### 他 1 事業、ニュース、名簿の製作発行事業

(1) 『JPSニュース』を年6回 (No. 602～607) 発行した。

(2) 『会員名簿2023』増補版を2023年5月に、『会員名簿2024～2025』を2024年1月に発行した。

### 他 2 事業、祝賀会の事業

(1) 2023年度の会員相互祝賀会を12月13日(水)、アルカディア市ヶ谷で開催した。

### 管理部門事業

(1) 「写真家のための『電子帳簿保存法』セミナー」を10月30日(月)、オンラインで開催した。講師は上西知(税理士)で56名が参加した。

(2) 「全国会長行脚」

第1回関西地区、11月16日(木)大阪市立総合学習センターで開催。熊切会長、山口副会長、参加者41名。

第2回中部地区、2024年1月31日(水)Share 8P『ランダム』チサンマンション第3名古屋で開催。熊切会長、山口副会長、参加者27名。

### 事業報告書の付属明細書について

この事業報告には、「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第34条第3項に規定する付属明細書「事業報告の内容を補足する重要な事項」が存在しないので作成いたしません。